

平成 30 年度市政懇談会（移住分野）会議録

■期 日：1 月 23 日（水）

■場 所：市役所西有家庁舎

■参加者：12 人

人口減少対策の一つとして取り組んでいる移住政策の推進を図るため、実際に本市に移住して来られた人に参加していただき、移住する際に必要な支援、移住したときに感じた良いところ、改善すべきところなどについて懇談しました。

以下、主な懇談内容。

移住者の居住確保

【参加者】

・私たちが来たときは移住者への対策がまだ進んでおらず、まず就職が決まって、その後、市営住宅の申し込みをしたが、抽選日まで3週間もあり、その間、家なしの状態で困った。

いきなり空き家に入るとするのは勇気がいる。市営住宅など箱はあると思うので、そういうところに入りやすくしていく仕組みがあればいいと思う。

【市】

・市営住宅については現在のところ特別に移住者向けの取り組みというのは、実施していない。

【参加者】

・移住というものを、何か新しく始めるために来るのではなく、住まいを替えてみるという気軽な感覚で来られるようにするための環境や窓口を持ってもいいと思う。

【市】

・小学校の廃校などがあり、活用方法をいろいろと考えている。住まいとして活用する方法もあるが、具体的な検討段階には至っていない。確かに、気軽にできるような移住施策も必要。本市では、「お試し住宅」を設けて、10日間滞在してもらい、環境面や仕事面などについて確認してもらっている。他地域では、移住して来た人が新たな住まいを見つける2～3カ月の間、住まいを利用できる施策を実施しているところもあるので、今後検討したい。

【参加者】

・大きな建物を使うのであればシェアハウスの的なものにして、1次産業や民泊などの体験を自由に選べれば、若い人たちも興味が出てくるかもしれない。引っ越しくらいの軽い気持ちで移住を考えられるような雰囲気をつくってほしい。

【市】

・今、お話があったような整備、気軽にできるような仕組みも必要と感じた。

【参加者】

・移住したとき老朽化した空き家を改装して住まいとしたが、お金がなかったので自分で木材を買って補修して大変だった。整った家が2～3軒あって、ある程度まとまった期間、体験ができるという仕組みがあれば、気軽に移住を考えるきっかけになると思う。

移住創業支援

【参加者】

・移住創業という考え方で来たので、家を探したり、改装することも楽しかった。若い年齢層のU・Iターン者は、大変さも楽しめる年代だと思う。来てからここで何かを始めようと考えている人たちをターゲットにしてはどうか。その場合、仕事をつくるのが大変なので、移住創業支援が必要。ながさき移住サポートセンターは引っ越し費用を支援、南島原市は空き家の改修を支援してくれている。でも一番費用がかかるのは創業費用。東京、埼玉、千葉から移住して創業すると、国から300万円の創業支援があるが、これを活用して移住を考えている人は多いと思う。南島原市は、店舗がそれほど多くなく競争相手が少ないので、創業のチャンスが高い。市として、創業支援に力を入れて、移住創業がしやすいまちだということをアピールしたら、関東圏の若い世代に響くのではないかと思う。

【市】

・創業支援については、現在、世界遺産とジオパークに関連するものであれば、200万円上限、その他は100万円の上限で10分の3補助の事業があります。

【参加者】

・創業支援は、県内でもあまりない手厚い制度があるのに、その情報がなかなか移住者に伝わっていないのがもったいない。移住相談の窓口で創業支援の情報をセットにしたらいいと思う。

【市】

・その制度は、今のところ2020年の3月までとなっているが、今後の検討も必要。制度の周知に関しては、PRの方法を改善したい。

【参加者】

・南島原市で起業して、正直きつかった時期があった。都会で創業してたらよかったのかと悩んだ時期もあったが、都会での創業は競合が激しくて厳しかったと思う。南島原市のゆっくりとした土壌だったから、私たちみたいな未経験の者をゆっくり育てていただいたという気持ちがある。運転資金が大変な時期があったが、生の声として創業しやすい土地である。

【参加者】

・南島原市も空き店舗が多いと思う。そこを自力で改装するのは厳しいので、改装してか

ら貸し出すという方法もある。移住する人によっては、一から全部自分でやりたいという人もいるので、いろんなパターンを想定して、それがホームページでわかるようになっていればいい。

移住パターンのカテゴリー化と案内支援

【参加者】

・移住には、たくさんのパターンがあると思う。家族でとか、現役リタイア後とか、嫁に来るとか、何かをしたいとか。「創業したい人」の入口と、もう一つは、市内の労働力不足（後継者不足）の現状があるので、創業はしないけど南島原の土地が好きで来たという人が、市の労働力不足の解消につながればと思う。どういうパターンの移住実績が多いかなどの情報発信も必要。そして、移住パターンに合わせてコンシェルジュ（案内する人）がいたらいいと思う。

今は、出会いやつながりが大事なので、そういう場所が必要。お試し住宅も、南島原の良さが一番伝わる方法。いざ住んでから行くスーパーや病院の情報やこのコミュニティに入って大丈夫かなとかの不安を解消してくる窓口を、今日のメンバーなどに割り振ってもらったら、サポートができて良さを伝えていくことができると思う。

現役リタイア後の移住

・市町村合併後に来て、8町がどのような状況だったかわからないが、それぞれの町でお祭りイベントをやったり、町ごとにいろんな箱もの施設があったり、小学校の統合問題とか、市も財政的に大変なのではないか。今はもう慣れてきたが、移住して来たときは違和感があった。もともとゆっくり過ごすために移住したが、民泊事業に誘われてやってみると友達がたくさんできるなどいい方向に転がって、今は忙しく暮らしている。ここは、海も見えるし環境的にも温かいので、ここに来て本当に良かった。魚釣りの情報をもっとアピールすると、釣り好きの人が集まってくるのではないかな。

移住者によるイベントの企画

【参加者】

・移住して3年。年代的に子育て世代と抱える課題などをいろいろ話しているなかで、子どもの個性、才能、多様性を認め合う社会づくりをしたいと思い、子どものためのアートスクール、ものづくりのスペースを作る活動を今計画している。そのキックオフイベント「蒼ノ扉（アオノトビラ）」を、5月にエコ・パーク論所原で開催予定。集客目標は2,000人規模で音楽イベントやマルシェなども実施したい。実行委員の代表を務めており、その他のメンバーもすべて島原半島内の女性で構成しているこのイベントを、市にも応援してもらいたい。移住者がこれだけのイベントを企画できる地域というのを知ってもらえれば、暮らしやすいまちだと思ってもらえて、移住や市のPRにも効果があると思う。

【市】

・応援します。この地に来ていただいた皆さんが、こうやって活動していただくのは本当にありがたいと思う。

子育て環境の支援体制

【参加者】

・見てのとおり今まさに子育て中で、自分が体調を崩したときとか、いろんな会合に出席するとき、近くに父母がいるところは預けられるが、その環境がない場合、子どもを預ける場所がなくて困っている。長崎市とかだと、子ども好きだという人を登録しておいて、子どもを見てほしい人とのマッチングをする事業などのサービスがある。夜とか土日とか保育所の開いてない時間帯の預け先があればと思う。

【市】

・今日、お子さん連れのこういう雰囲気の会ができるのをうれしく思っていたが、確かに、そういう面がある。

【参加者】

・子育てしやすい土地なので、さらにその部分の充実があれば、子育て世代の人たちが帰ってきて活性化するのではないかと思う。

【市】

・子育て支援については、力を入れている。子育て支援を充実すると来ていただけるという思いでやっているので、今後もし意見をいただければと思う。

インターンシップ活用への支援

【参加者】

・人手不足の事業者が多いが、インターンシップの活用は難しい部分がある。寮があるないとか、できる部分できない部分がある。移住を検討している人が仕事を体験したいときに、泊まれる施設の支援があると受け入れ側としての負担が軽くなる。体験した人が就職したり、移住決定のきっかけになるかもしれないので、その部分を市の移住政策として支援があると事業者として助かる。その際、事業者は日々の業務で手一杯なので、コンシェルジュしてくれる人がいるとインターンシップに取り組みやすくなる。

それと、自分もここに来た時に周りの人に助けてもらったので、地域住民と移住者の集う場があれば、移住しやすくなる。

地域住民とのマッチング

【参加者】

・移住者してきたときは、よそから来た人というレッテルを貼られて数年生活してきたが、今の時代はその垣根はもうないと思う。移住者が何かをしてくれるということではなく、

例えばアイデアが外から得たものであっても、地域住民が動かすことは十分できると思うので、そういうところをマッチングしていったらいいと思う。

来庁者への挨拶

【参加者】

・南島原食堂をさせていただいている立場で、地域の人やお客さんと楽しくさせていただいている。お客さんに対して「おかえりなさい」と言うスタンスで始まった。最初の頃は抵抗感があったが、返ってくる言葉がすごくいい。そのうち、さりげなく言えるようになった。市役所でも来庁された人に「おかえりなさい」と言ってみてはどうだろうか。私たちだけで言っているのはもったいないという気がした。

【市】

・ありがとうございます。

今日は、そういう視点で考えないといけないと思いを一新した。皆さんの意見を、今後どう生かして現実の形にしていくかが大事なので、こういった機会をつくりながら進めていきたい。今後とも協力をお願いする。今日の皆さんの意見や思いを、次の移住につなげていきたい。